

十和田市立 新渡戸記念館だより

新渡戸稲造博士

直筆の書や書簡を含む資料

38点を収集しました!!

この度、新渡戸稲造博士関係資料38点を収集しました。これは新渡戸稲造家の執事をつとめた大村吉さんゆかりの資料で、稲造博士直筆の書や掛軸、書簡、初版のサイン入り著書、古写真など38点です。



船上でのスナップ

新渡戸稲造博士と 大村吉さん

大村吉さんは東京小日向台の新渡戸稲造博士自宅に女性執事としてつとめ、稲造家の家計を切り盛りしていました。1933（昭和8）年稲造博士が亡くなった後も、未亡人となった新渡戸萬里子夫人に引き続いて仕えましたが、1938（昭和13）年には萬里子夫人も亡くなり、その後は実家に戻られたという事です。

今回収集した資料は稲造博士の自宅で長年執事をつとめ、博士の身近にいた大村さんが大切に保管されていた資料という事もあり、稲造博士の写真や直筆の書などのほかに、博士が1933（昭和8）年1月9日付けで、講演旅行先のカナダ・ビクトリアから、大村さん宛に出した手紙など大変興味深い資料が含まれています。また、写真の中には稲造博士葬儀の一連写真や萬里子夫人の葬儀の写真、そして稲造博士と萬里子夫人の夭折した一子・遠益とんえきの墓の写真などがあり、特に1933（昭和8）年にカ

ナダで客死した博士の遺骨が、秩父丸から横浜港に降りて来るところからその後の葬儀までの一連写真16枚は、当時盛大に行われたという博士の葬儀の様子を克明に教えてくれます。



新しく収集した資料38点

資料は 5月の太素祭に館内に展示

今年は稲造博士の祖父、父が中心となって行なった三本木原開拓・稲生川上水から140年の節目の年にあたります。上水を記念して行われる太素祭（5月3日～5日）には『新収蔵資料展示コーナー』を設け、これらの資料を展示する予定です。太素祭期間は市民以外のお客様にも記念館を無料公開いたしますので、お誘い合わせの上ご来館ください。

三本木原開拓・稲生川上水140年記念として、太素顕彰会より『三本木原開拓のしおり』の改訂版が今年の太素祭に出版されます。開拓の歴史から稲造博士の業績、新渡戸家の歴史が分かり易くまとめられた一冊です。

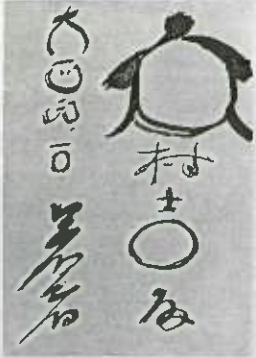


萬里子夫人葬儀の写真。後列右から新渡戸誠さん、ことさん、武子さん、大村吉さん。

新収蔵資料から

稲造博士の
サイン入り著書

『世渡りの道』



大正元年10月初版

◀サインには「大村吉殿 大正元。
一〇 著者」とある

『世渡りの道』は1912（大正元）年10月に出版された博士の著書で、人間の生き方について博士の考えをまとめたものです。前年に出版された著書『修養』が自分自身に対する義務をテーマにしたのに対し、『世渡りの道』は世の中であってどうあるべきかをテーマに書かれています。

今回収集した本は初版で、表紙をひらくと稲造博士が大村さんに宛てて書いた「為書き」があり、日付から出版されたとき記念に博士が大村さんへ書いてあげたものと思われます。「大」の字は丸髷の女性の顔をかたどった絵文字になっている様で、ユーモアのある稲造博士の人物が感じられます。

新渡戸氏ゆかりの地をたずねて4

にとべ

栃木県調査 — 新渡戸姓のルーツを探す —

昨年9月30日～10月2日まで新渡戸姓の発祥の地「新渡戸駅」を探して栃木県を調査してきました。

新渡戸姓のルーツ「新渡戸駅」

新渡戸氏に代々伝わる『新渡戸氏系譜』によると、「新渡戸」の姓は約800年前に賜わった領地の名前にちなんだものという事です（詳細は第7号）。鎌倉幕府の年代記『吾妻鏡』にも「新渡戸駅」の名が記されていますが、現在栃木県内にその地名は残っていません。



点線でかこんだ所が
今回の調査地域



「新渡戸駅」といわれている 場所を尋ねて

現在新渡戸の地名はありませんが、栃木県内には旧新渡戸駅といわれている場所が幾つかあり、平成8年8月の調査ではその内の一つ「二宮町水戸部」を調査しました。今回は引き続き、旧新渡戸駅といわれている残りの地域になにか手掛かりが残っていないか調査しました。



伊王野の正福寺
ここに「丹渡度」の地名が記されている「わに口」があります



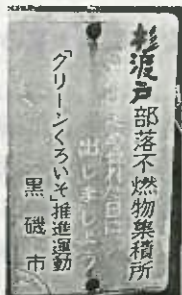
わに口
社殿の軒下につるす
金属製の音響具
(広辞苑より)

◆那須町芋淵周辺説

『那須郡誌』（蓮見長著）によると、那須町伊王野の正福寺に伝わる“わに口”に「伊王野村丹渡度…応永6年（=1399年）」と記されており、「丹渡度」はもと「丹渡戸」と書き“にわたど”と読むことなどから、「丹渡戸」は「新渡戸」の地名が長い間に变化したものだという事です。「丹渡戸」も「新渡戸」同様、現在は地名として残っていませんが蓮見氏は正福寺がもとあった場所の近く、那須町の芋淵周辺を指すのではないかとしています。

◆黒磯市杉渡土説

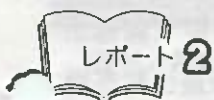
『大日本地名辞書』（吉田東伍著）では那須町の「杉渡土」をもとは「杉渡戸」と書いた事や、『吾妻鏡』の「文治5年（=1189年）7月26日、宇都宮を立たせしめ給う。28日、新渡戸駅に着く。29日、白河関を越える。」という記述から位置的に考えて、「杉渡土」が「新渡戸駅」ではないかとしています。昔のくずし字では「杉」と「新」がとても良く似ているので何世紀もたつうちに間違っただけなのでは、とも考えられます。



現在も地元では「杉渡戸」「杉渡土」の二つの書き方が使われていました

◆黒羽町寒井周辺説

『那須町史』ではほかの二説よりさらに4kmほど南下した黒羽町「寒井」周辺が「新渡戸駅」ではないかという説をあげています。



系譜に名前が残る 「法輪寺」を探して

「系譜」によると下野国新渡戸での新渡戸氏菩提寺は「大英山法輪寺」で1237(嘉禎3)年に常秀が葬られて以来、約100年間に8代がこの寺に葬られたと伝えられています。この寺の名前を手掛かりに栃木県内を探したところ「法輪寺」と呼ばれる二つの寺を見つけました。

◆法輪院九石山長安寺 (茂木町千本)

法輪院九石山長安寺については『那須郡誌』に「新渡戸氏系譜の法輪寺は栃木県茂木町九石にあったもので、同町の千本に「長安寺」と名前を変えても現存する」と記されていました。その事実の



文化8年の火災をまぬがれ九石以来の面影とどめる長安寺絵門

確認のために、長安寺を訪ね住職・大崎孝雄師にお話を伺いました。長安寺は1195(建久6)年須藤十郎為隆(那須与一の兄)が須藤氏の菩提寺として九石に建てたのが始まりで、名前は当時「法輪院長安寺」と言いました。しかしその約300年後、1491(明応元)年7代資持が九石から西に約3km離れた現在の千本へ移し「法輪院九石山長安寺」と山号を改めたそうです。この時墓所も移し現在まで残っています。この須藤家墓所の一番端に、鎌倉時代様式に近い形の五輪塔があります。この五輪塔については須藤十郎為隆の墓といわれていますが、「新渡戸氏の墓」という説もあり、下野新聞が編集した『栃木の城』には「新渡戸稲造の先祖の墓」と書かれているとの事でした。五輪塔に刻まれていた文字は歳月のために失われており、1811(文化8)年の火災で古い記録も焼失して

いるので言い伝えの真偽は確認できませんでしたが、今後の調査の手がかりとして大きな収穫でした。



◀長安寺須藤家の墓所 矢印が須藤十郎為隆の墓とも、新渡戸氏先祖の墓ともいわれている五輪塔

◆光丸山法輪寺 (湯津上村佐良土)

湯津上村佐良土の正覚山実相院法輪寺(通称・光丸山法輪寺)は開山が860(貞観2)年と古いお寺で、新渡戸駅があったといわれる場所の一つ「寒井」からは10キロほどと比較的近くにあります。調査に伺ったところ、ご住職の都合でお話を伺う事はできませんでしたので次回の詳しい調査が待たれます。

トビックス つきおれ 月居トンネル



新渡戸七郎 31歳の写真



新渡戸稲造 21歳の写真

稲造の兄七郎が 技師として工事にたずさわった

新渡戸駅があったといわれている辺りから20kmほど南東へ行くと、明治中頃新渡戸七郎が技術者として工事に携わった「月居トンネル」(茨城県大子町)があります。このトンネルのある月居山(404m)は戦国時代の古城跡で、山頂近くには月居観音堂が祀られ現在は水戸藩主徳川齊昭の歌碑がたっています。山のふもとには雄大な袋田の滝で有名な「袋田温泉」があり、この温泉には1884(明治17)年に稲造がアメリカ留学にあたって、兄・七郎に逢うため宿泊しました。当時月居に工事監督として駐在していた七郎は留学の意志を聞いて喜び、三百円を稲造に与えました。その後稲造がアメリカ、ドイツと留学している間に七郎は46歳で亡くなりましたので、これが今生の別れとなっていました。



▲袋田温泉にある袋田の滝 稲造は袋田温泉から親友の植物学者・宮部金吾に宛てて出した手紙に「袋田の滝を見物し素晴らしい景観が大変気に入った」と書いています。



月居トンネル

— ありがとうございます —

とさき 市内・土崎哲男さんより 農業土木関係書籍15冊寄贈頂く

昨年末、十和田市在住の土崎哲男さんより、農業土木関係の貴重な書籍15冊を寄贈頂きました。このご厚志に対して今年2月、太素顕彰会会長水野好路十和田市長より感謝状が贈られました。



水野市長より感謝状を受ける土崎氏



寄贈された書籍

※平成7年ご寄贈頂いた江渡寛家文書は一部を現在展示中です

土崎さんは三本木農学校から岩手大学に進まれ、農林省を経て秋田県立農業短期大学教授をつとめられた農学博士で、『農業土木史』などの著書があります。これらの研究のために長年集められた貴重な書籍を今回頂きましたので、今後の記念館活動へ役立てていきたいと思ひます。

関連情報

● 青森テレビで三本木原開拓紹介される

2月7日青森テレビの15分番組『ヒューマンエナジー in Aomori』で「三本木原開拓に生涯をかけた新渡戸^{つとむ}傳」として開拓の歴史が紹介されました。今回は新渡戸傳の日記『太素日誌』などに残る傳自身の言葉を引用し、その人間性にスポットを当て紹介していました。

● 十和田国際交流協会主催講演会で「新渡戸稲造先生と札幌遠友夜学校」と題し元北大教授山本玉樹先生講演

昨年12月北里大学視聴覚ホールで行われた十和田国際交流協会主催の国際交流講演会で現在北大講師をつとめる山本玉樹先生が「新渡戸稲造先生と札幌遠友夜学校」と題し講演されました。山本先生は稲造博士と萬里子夫人が、私費を投じ設立した勤労青少年のための遠友夜学校が、どの様なものだったか詳しく話され、稲造博士の教育実践の素晴らしさについて熱を込めて語られました。

<編集後記>

稲造博士の掛軸等を入手しました。最初目の当たりにした時、これら資料が記念館での展示を待っているように感じました。保存も良く、まさに「十和田市の宝」になるものと思ひました。太素祭での公開が楽しみです。

● 平成9年度分の絵図面裏打ち作業および稲造博士書の軸装作業完了

今年度分の絵図面16点の裏打ち作業と昨年収集した稲造博士の書1点の軸装作業が昨年12月に完了しました。(軸については第11号で紹介)今回は相坂村、深持村の新田検地絵図を中心に裏打ちを行いました。中には奥人瀬川へかける橋の計画図『相坂川橋懸見込川普請仕様調』もあり、詳しい調査が済み次第発表していきたくと思ひます。また、現在は「慶応元年検地絵図」(3.6m×2.6m)と「三本木平開墾地域内略図」(2.4m×1.5m)の二つの絵図面を裏打ち中です。



『相坂川橋懸見込川普請仕様調』

活動報告

● 館長講演会

2月7日と3月7日の二回にわたり十和田市文化財保護協会(佐々木陸奥男会長)主催の文化財講演会(中央公民館)で三本木原開拓や新渡戸家の歴史を中心テーマに講演しました。現在進めている資料整理作業の中で発見した最新情報や栃木県内の調査状況、新渡戸傳が書いた経済建白書『夢中翁嘉言』についてもお話ししました。

● 稲造博士関係資料の収集活動

新渡戸稲造博士に関する資料38点を収集しました。(詳しくは1, 2面に掲載)今後詳細を紹介していきたくと思ひます。

● 記念館来観者用パンフレットを更新しました

新しい来観者用カラーパンフレットができました。昨年制作のPRパンフレットが写真中心だったのに対して、三本木原開拓の歴史や稲造博士の業績がこの一枚で分かるように、解説中心の構成となっています。

パンフレット表紙 ▶



発行 太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL (FAX) 0176 23-4430
印刷 有限会社 岩間印刷所